

<MW-H-110-02-F>

Express5800/MW アップデート適用手順書

フェイルオーバークラスタ構成編

本書は下記の製品が対象です

N8100-1705 Express5800/MW400h

2012/11 第2版

目次

はじめに	- 3 -
アップデートモジュール適用時の注意・制限事項.....	- 4 -
フェイルオーバークラスタ構成.....	- 4 -
1. オンラインアップデートの実施手順	- 6 -
2. オフラインアップデートの実施手順	- 19 -
3. コマンドラインからのアップデートの実施手順.....	- 30 -
4. RPM パッケージファイルの適用手順.....	- 36 -
5. バックアップの実施.....	- 38 -

はじめに

本ドキュメントは、Express5800/MW400h(以下、MW と表記します)用に公開されているアップデートの適用手順について記載しています。

MW のアップデート適用方法には、以下4通りの方法があります。

オンラインアップデート

オンラインアップデートは、MW に必要なアップデートをインターネット上のアップデート公開サイトから取得し、Management Console 画面から適用します

オフラインアップデート

オフラインアップデートは、予め入手しておいたアップデートモジュールを Management Console 画面から適用します。

コマンドラインからのアップデート

コマンドラインからのアップデートは、予め入手しておいたアップデートモジュールをコマンドラインから適用します。

RPM パッケージファイルの適用

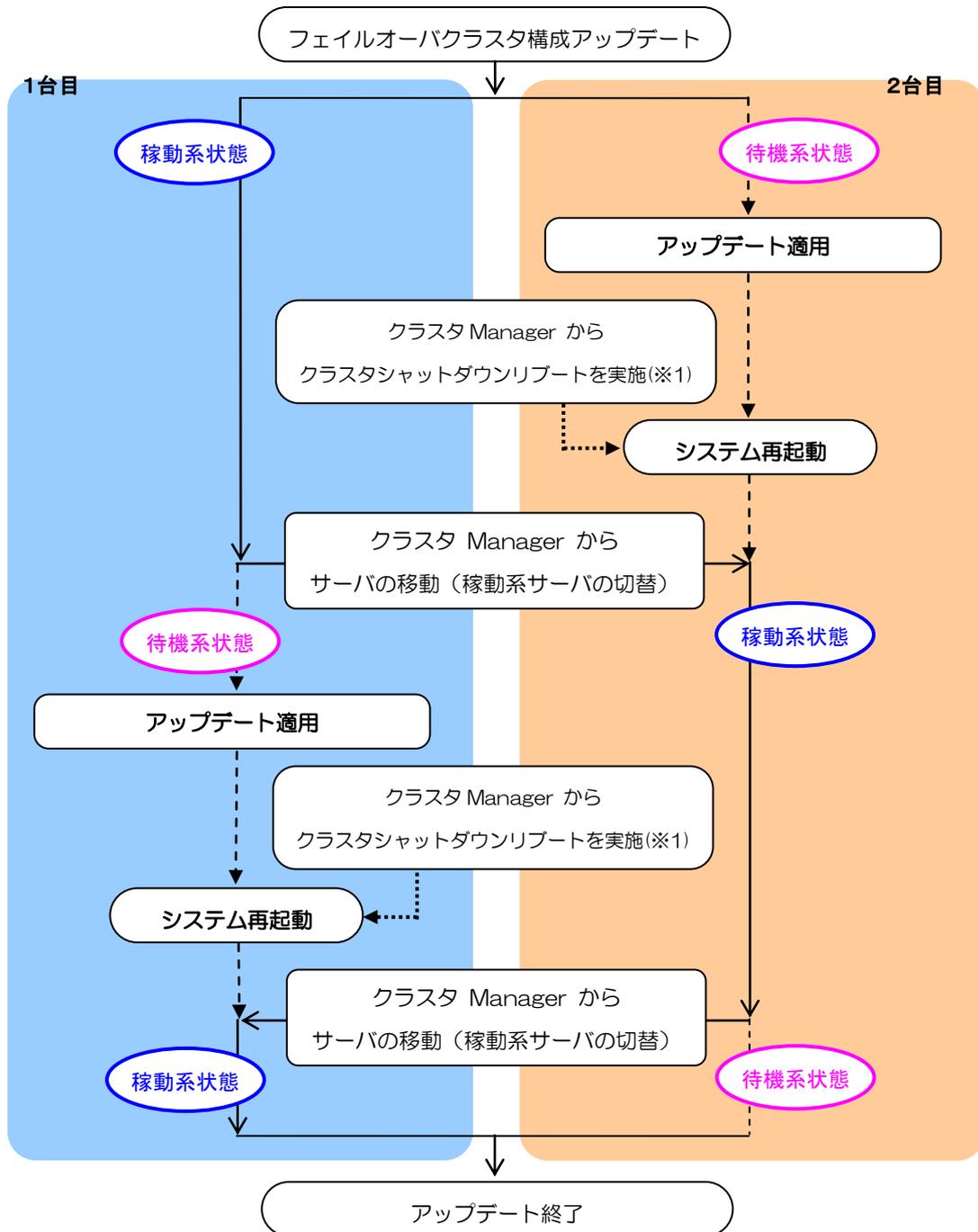
RPM パッケージファイルの適用は、MW 用アップデートモジュールの適用ではなく、rpm ファイルを Management Console 画面から直接インストールします。

アップデートモジュール適用時の注意・制限事項

フェイルオーバクラスタ構成

- アップデートモジュール適用前、適用後には MW のバックアップ実行を推奨します。
- アップデートモジュールは、必ず公開された順番で適用してください。
- アップデートモジュールの適用は、適用するサーバを待機系にして行ってください。
- アップデートモジュール Rel 1.0 適用前の場合
アップデートモジュールを適用した後は必ず再起動してください。
オンラインアップデートやオフラインアップデートを実施した場合は、アップデートモジュール適用毎に再起動が必要です。
コマンドラインからアップデートを実施した場合は、すべてのアップデートモジュールを適用した後に再起動が必要です。
- アップデートモジュール Rel 1.0 適用後の場合
アップデートモジュール適用後の再起動の必要性はアップデートモジュール毎に異なります。アップデートモジュール適用後の、再起動の要不要は各アップデートのリリースノートをご確認ください。
- 再起動が必要なアップデートモジュールを適用した後は必ずクラスタシャットダウンリポートをしてください。
オンラインアップデートやオフラインアップデートを実施した場合は、アップデートモジュール適用毎にクラスタシャットダウンリポートが必要です。
- 再起動が必要なアップデートモジュールを適用した後は、必ず稼働系の状態のままクラスタシャットダウンリポートしてください。
- アップデートモジュール Rel 1.8 を適用する場合は、CLUSTERPRO のモジュールを停止後にアップデートを実施する必要があります。以下の手順にしたがってください。
- 再起動が必要なアップデートモジュールを適用した後は、必ず稼働系の状態のままクラスタシャットダウンリポートしてください。
- クラスタシャットダウンリポートは、必ず CLUSTERPRO の Web マネージャ画面から行ってください。また、クラスタシャットダウンリポートは、稼働系サーバと待機系サーバとも同時に行ってください。

フェイルオーバークラスタ構成時の両系サーバにおける適用の流れは次のとおりです。



※1 システムの再起動が不要なアップデートのみ適用する場合は、上記手順中のクラスタシャットダウンレポートは、行う必要はございません。また、アップデートモジュール Rel 1.8 を適用する際は、Management Console より、システムの再起動を行う必要があります。

1. オンラインアップデートの実施手順

オンラインアップデートは、MW に必要なアップデートをインターネット上のアップデート公開サイトから取得し適用します。



オンラインアップデートを行われる場合は、MW がインターネット上のサーバに http プロトコルにて接続可能な環境であることが必要です。

以下の手順では、本手順実行開始時において、稼働系のマシンを MW1、待機系のマシンを MW2 として、説明いたします。

- (1) MW2 の MW サーバにログインしてください。(Rel 1.8 適用時のみ)



本手順の実行は、root アカウントで行う必要があります。
MW にログインした後、su コマンドで root アカウントに変更しておいてください。
「su - root」を実行することで root アカウントに変更できます。

- (2) MW2 を次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を起動させないようにします。(Rel 1.8 適用時のみ)

次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を起動させないため、
下記のコマンドを実施します。

```
# chkconfig --del clusterpro_alertsync  
# chkconfig --del clusterpro_webmgr  
# chkconfig --del clusterpro  
# chkconfig --del clusterpro_md  
# chkconfig --del clusterpro_trn  
# chkconfig --del clusterpro_evt
```

- (3) CLUSTERPRO の Manager からサーバの MW2 のシャットダウンリブートを実行します。
(Rel 1.8 適用時のみ)

- (4) クライアント PC から MW2 のシステム管理者 Management Console にログインしてください。

Management Console のセキュリティモードがレベル 2 の場合

https : // example.co.jp : 50453/

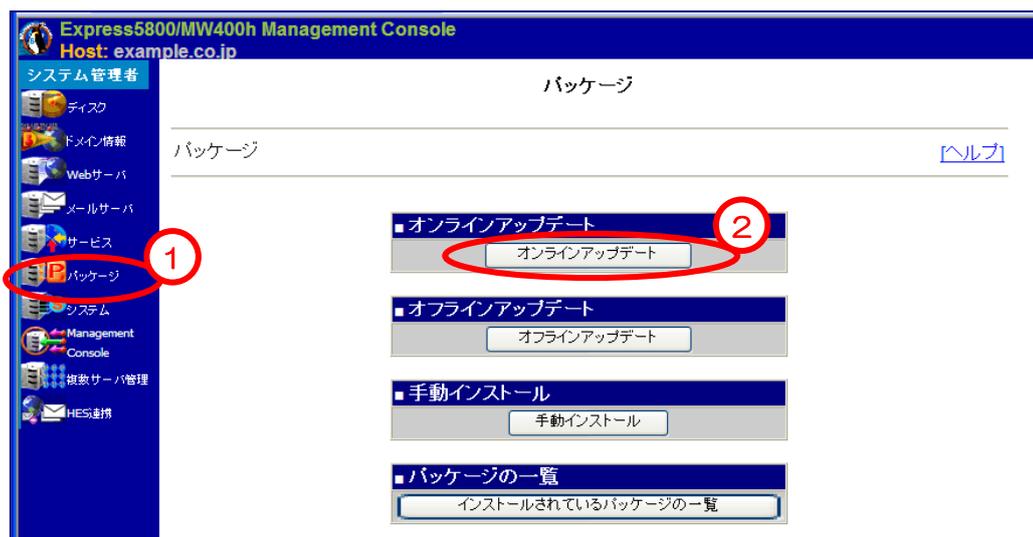
Management Console のセキュリティモードがレベル 1 または レベル 0 の場合

http : // example.co.jp : 50090/



URL に各ホスト名を指定する場合は、クライアント PC 側でホスト名の名前解決ができる必要があります。 名前解決できない場合は、IP アドレスで接続してください。

- (5) 「パッケージ > オンラインアップデート」画面を開いてください。



(6) [最新情報に更新]ボタンをクリックして、アップデート情報を取得してください。

[パッケージ](#) > オンラインアップデート

[戻る](#) [ヘルプ](#)

最終更新日付: なし

最新情報 **1** 新

■アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
アップデートモジュールを取得していません						

■オプション設定	
認証設定	
<input type="checkbox"/> ユーザ認証を行う	
ユーザID:	<input type="text"/>
パスワード:	<input type="text"/>
サポートID:	<input type="text"/>
HW型番(N型番):	<input type="text" value="N8100-1705"/>
ダウンロード設定	
<input type="checkbox"/> プロキシを使用する	
プロキシアドレス:	<input type="text"/>
プロキシポート番号:	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 取得済みのモジュールを再取得する	
<input type="button" value="設定"/>	



「HW 型番 (N 型番)」は変更しないでください。変更した場合、正しいアップデート情報を取得することができません。



サポート契約を行われている場合は、「■オプション設定」の「認証設定」の以下の項目にご契約情報を設定してください。

- 「ユーザ認証を行う」をチェックしてください
- 「ユーザ ID」、「パスワード」、「サポート ID」にご契約情報を設定してください。

アップデート公開サイトからアップデート情報が取得できたら、「アップデートモジュール一覧」に表示されます。（以下のアップデート情報は、説明用のものであり、実際のアップデートではありません）

公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel1.1をリリースします。[詳細情報]	不要	update-1.0-1.noarch.rpm	<input type="checkbox"/>	未



アップデート情報の各内容は以下のとおりです。

「公開日」	アップデートが公開された日付を表示します
「Rel.」	アップデートバージョンを表示します
「概要」	アップデート名称を表示します
「再起動」	アップデート適用後の再起動要不要を表示します (アップデートモジュール Rel1.0 または、Rel 1.7 適用後表示されます)
「パッケージ名」	アップデート対象の rpm ファイル名を表示します

(7) 必要なアップデートモジュールを取得してください。

アップデートモジュールの[取得]欄のチェックボックスをチェックして、[取得]ボタンをクリックしてください。

公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel 1.1をリリースします。[詳細情報]	不要	update-1.0-1.noarch.rpm	<input checked="" type="checkbox"/>	未



未取得のアップデートモジュールが複数ある場合、[取得]をチェックしたアップデートモジュールを含み、必要なアップデートモジュールは自動的に取得対象としてチェックされます。

アップデートモジュール取得確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。

取得に成功すると、アップデートモジュール一覧の[取得]欄は、“済”と表示されます。

公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel 1.1をリリースします。[詳細情報]	不要	update-1.0-1.noarch.rpm	済	<input type="checkbox"/>

- (8) アップデートするモジュールを選択してください。
 アップデートモジュールの[選択]欄のチェックボックスをチェックして、[選択]ボタンをクリックしてください。

■アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel1.1をリリースします。[詳細情報]	不要	update-1.0-1.noarch.rpm	済	<input checked="" type="checkbox"/>



未適用のアップデートモジュールが複数ある場合、[選択]をチェックしたアップデートモジュールを含み、必要なアップデートモジュールは自動的に適用対象としてチェックされます。

アップデートモジュール適用確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。適用準備に成功すると、以下のようにアップデート適用実行を促すメッセージが表示されます。

[パッケージ](#) > オンラインアップデート

[戻る](#) [ヘルプ](#)

※アップデートモジュール(Rel 1.0)の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。
 なお、このアップデートにはアップデート適用後、再起動が必要なものが含まれています。アップデート適用後、再起動を行ってください。

アップデート適用

最終更新日付: 2011/09/08

最新情報に更新

■アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel1.1をリリースします。[詳細情報]	不要	update-1.0-1.noarch.rpm	済	<input type="checkbox"/>

Rel1.0 適用前の場合は、以下のように再起動を促すメッセージが表示されます

[パッケージ](#) > オンラインアップデート

[戻る](#) [ヘルプ](#)

※アップデートモジュール(Rel 1.0)の適用準備が完了しています。適用する場合、本装置を再起動してください。

最終更新日付: 2011/2/4

最新情報に更新

■アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	適用
2011/2/4	1.0	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel 1.0 [詳細情報]		dummy-1.0-0.i386.rpm	済	<input type="checkbox"/>

(9) アップデートモジュールの適用してください。

適用準備に成功すると、以下のようにアップデート適用実行を促すメッセージが表示されます。パターンは以下の三つとなります。

1. アップデート適用後、再起動が必要な場合

「アップデートモジュール(Rel [適用するアップデート中、一番新しいアップデート番号])の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。なお、このアップデートにはアップデート適用後、再起動が必要なものが含まれています。アップデート適用後、再起動を行ってください。」

上記メッセージが表示された場合には、[アップデート適用]ボタンを押下しアップデートを行ってください。アップデートの適用が完了したら、項番(10)にすすんでください。

2. アップデート適用後、再起動が不要な場合

「アップデートモジュール(Rel [適用するアップデート中、一番新しいアップデート番号])の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。」

上記メッセージが表示された場合には、[アップデート適用]ボタンを押下しアップデートを行ってください。アップデートの適用が完了したら、項番(13)にすすんでください。

3. アップデート適用には、システムの再起動が必要な場合

「アップデートモジュール(Rel [適用するアップデートバージョン])の適用準備が完了しています。適用する場合、本装置を再起動してください。」

アップデート適用実施には、項番(10)にすすんでください。

(10) MW2を次回OS起動する際、CLUSTERPROを起動させるようにします。(Rel 1.8適用時のみ)

次回OS起動時にCLUSTERPROを自動起動させるため、下記のコマンドを実施してください。実施はルートユーザにて、行ってください。

```
# chkconfig --add clusterpro_evt
# chkconfig --add clusterpro_trn
# chkconfig --add clusterpro_md
# chkconfig --add clusterpro
# chkconfig --add clusterpro_webmgr
# chkconfig --add clusterpro_alertsync
```

(11) システムの再起動をおこなってください。

(9)の適用準備完了メッセージにおいて、“1. アップデート適用後、再起動が必要な場合”
または “3. アップデート適用には、システムの再起動が必要な場合”の表示がされた場合には、CLUSTERPRO のクラスター Manager 画面から MW2 のサーバをクラスターシャットダウンリブートしてください。

なお、アップデートモジュール Rel 1.8 を適用する場合のみ、MW2 にて、以下のコマンドを実施してください。

```
# reboot
```

(12) ミラーの自動復帰が開始されます(Rel 1.8 適用時のみ)

MW1 から MW2 へのミラーデータの自動ミラー復帰が行われます。

自動ミラー復帰完了まで、お待ちください。

完了後、次の項にすすんでください。

(13) CLUSTERPRO Manager より、稼動系を MW1 から MW2 へ変更をおこなってください。

(14) MW1 の MW サーバにログインしてください。(Rel 1.8 適用時のみ)



本手順の実行は、root アカウントで行う必要があります。
MW にログインした後、su コマンドで root アカウントに変更しておいてください。
「su - root」を実行することで root アカウントに変更できます。

(15) MW1 を次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を起動させないようにしてください。(Rel 1.8 適用時のみ)

次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を自動起動させるため、下記のコマンドを実施してください。実施はルートユーザにて、行ってください。

```
# chkconfig --del clusterpro_alertsync  
# chkconfig --del clusterpro_webmgr  
# chkconfig --del clusterpro  
# chkconfig --del clusterpro_md  
# chkconfig --del clusterpro_trn  
# chkconfig --del clusterpro_evt
```

(16) CLUSTERPRO Manager からサーバの MW1 のシャットダウンリブートを実行します。
(Rel 1.8 適用時のみ)

(17) クライアント PC から MW1 のシステム管理者 Management Console にログインしてください。

Management Console のセキュリティモードがレベル 2 の場合

`https://example.co.jp:50453/`

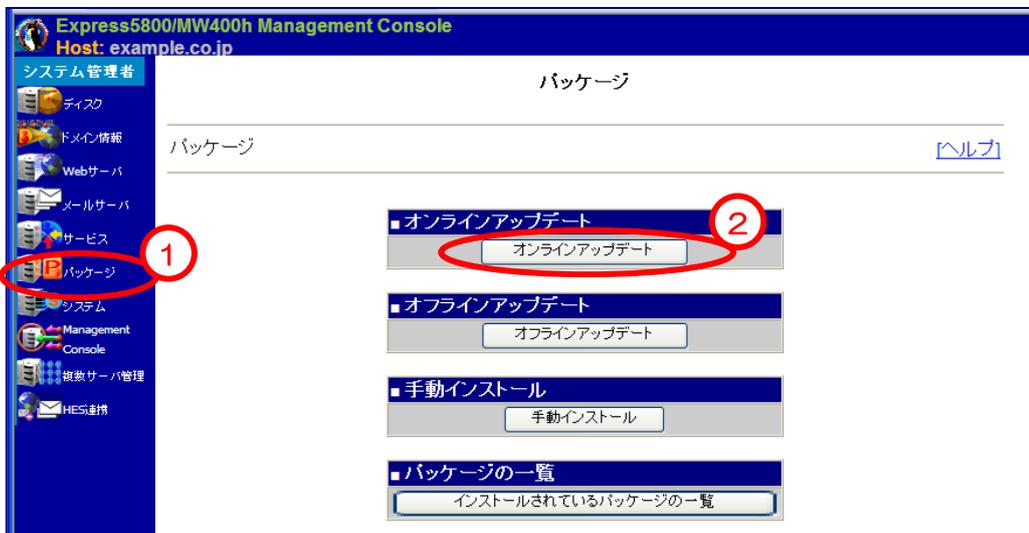
Management Console のセキュリティモードがレベル 1 または レベル 0 の場合

`http://example.co.jp:50090/`



URL に各ホスト名を指定する場合は、クライアント PC 側でホスト名の名前解決ができる必要があります。名前解決できない場合は、IP アドレスで接続してください。

(18) 「パッケージ > オンラインアップデート」画面を開いてください。



(19) [最新情報に更新]ボタンをクリックして、アップデート情報を取得してください。

[パッケージ](#) > オンラインアップデート

[戻る](#) [ヘルプ](#)

最終更新日付: なし

最新情報 **1** 新

■アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
アップデートモジュールを取得していません						

■オプション設定	
認証設定	
<input type="checkbox"/> ユーザ認証を行う	
ユーザID:	<input type="text"/>
パスワード:	<input type="text"/>
サポートID:	<input type="text"/>
HW型番(N型番):	<input type="text" value="N8100-1705"/>
ダウンロード設定	
<input type="checkbox"/> プロキシを使用する	
プロキシアドレス:	<input type="text"/>
プロキシポート番号:	<input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 取得済みのモジュールを再取得する	
<input type="button" value="設定"/>	



「HW 型番 (N 型番)」は変更しないでください。変更した場合、正しいアップデート情報を取得することができません。



サポート契約を行われている場合は、「■オプション設定」の「認証設定」の以下の項目にご契約情報を設定してください。

- 「ユーザ認証を行う」をチェックしてください
- 「ユーザ ID」、「パスワード」、「サポート ID」にご契約情報を設定してください。

アップデート公開サイトからアップデート情報が取得できたら、「アップデートモジュール一覧」に表示されます。（以下のアップデート情報は、説明用のものであり、実際のアップデートではありません）

公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel1.1をリリースします。[詳細情報]	不要	update-1.0-1.noarch.rpm	<input type="checkbox"/>	未



アップデート情報の各内容は以下のとおりです。

「公開日」	アップデートが公開された日付を表示します
「Rel.」	アップデートバージョンを表示します
「概要」	アップデート名称を表示します
「再起動」	アップデート適用後の再起動要不要を表示します (アップデートモジュール Rel1.0 または Rel 1.7 適用後表示されます)
「パッケージ名」	アップデート対象の rpm ファイル名を表示します

(20) 必要なアップデートモジュールを取得してください。

アップデートモジュールの[取得]欄のチェックボックスをチェックして、[取得]ボタンをクリックしてください。

公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel 1.1をリリースします。[詳細情報]	不要	update-1.0-1.noarch.rpm	<input checked="" type="checkbox"/>	未



未取得のアップデートモジュールが複数ある場合、[取得]をチェックしたアップデートモジュールを含み、必要なアップデートモジュールは自動的に取得対象としてチェックされます。

アップデートモジュール取得確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。

取得に成功すると、アップデートモジュール一覧の[取得]欄は、“済”と表示されます。

公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel 1.1をリリースします。[詳細情報]	不要	update-1.0-1.noarch.rpm	済	<input type="checkbox"/>

(21) アップデートするモジュールを選択してください。

アップデートモジュールの[選択]欄のチェックボックスをチェックして、[選択]ボタンをクリックしてください。

■アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel1.1 をリリースします。 [詳細情報]	不要	update-1.0-1.noarch.rpm	済	<input checked="" type="checkbox"/>



未適用のアップデートモジュールが複数ある場合、[選択]をチェックしたアップデートモジュールを含み、必要なアップデートモジュールは自動的に適用対象としてチェックされます。

アップデートモジュール適用確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。適用準備に成功すると、以下のようにアップデート適用実行を促すメッセージが表示されます。

[パッケージ](#) > オンラインアップデート

[戻る](#) [ヘルプ](#)

※アップデートモジュール(Rel 1.0)の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。
なお、このアップデートにはアップデート適用後、再起動が必要なものが含まれています。アップデート適用後、再起動を行ってください。

アップデート適用

最終更新日付: 2011/09/08

最新情報に更新

■アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel1.1 をリリースします。 [詳細情報]	不要	update-1.0-1.noarch.rpm	済	<input type="checkbox"/>

Rel1.0 適用前の場合は、以下のように再起動を促すメッセージが表示されます

[パッケージ](#) > オンラインアップデート

[戻る](#) [ヘルプ](#)

※アップデートモジュール(Rel 1.0)の適用準備が完了しています。適用する場合、本装置を再起動してください。

最終更新日付: 2011/2/4

最新情報に更新

■アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	適用
2011/2/4	1.0	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel 1.0 [詳細情報]		dummy-1.0-0.i386.rpm	済	<input type="checkbox"/>

(22) アップデートモジュールの適用を行います。

適用準備に成功すると、以下のようにアップデート適用実行を促すメッセージが表示されます。パターンは以下の三つとなります。

1. アップデート適用後、再起動が必要な場合

「アップデートモジュール(Rel [適用するアップデート中、一番新しいアップデート番号])の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。なお、このアップデートにはアップデート適用後、再起動が必要なものが含まれています。アップデート適用後、再起動を行ってください。」

上記メッセージが表示された場合には、[アップデート適用]ボタンを押下しアップデートを行ってください。アップデートの適用が完了したら、項番(23)にすすんでください。

2. アップデート適用後、再起動が不要な場合

「アップデートモジュール(Rel [適用するアップデート中、一番新しいアップデート番号])の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。」

上記メッセージが表示された場合には、[アップデート適用]ボタンを押下しアップデートを行ってください。アップデートの適用が完了したら、項番(26)にすすんでください。

3. アップデート適用には、システムの再起動が必要な場合

「アップデートモジュール(Rel [適用するアップデートバージョン])の適用準備が完了しています。適用する場合、本装置を再起動してください。」

アップデート適用実施には、項番(23)にすすんでください。

(23) MW1 を次回 OS 起動する際、CLUSTERPRO を起動させるようにします(Rel 1.8 適用時のみ)

次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を自動起動させるため、下記のコマンドを実施する。実施はルートユーザにて、行ってください。

```
# chkconfig --add clusterpro_evt
# chkconfig --add clusterpro_trn
# chkconfig --add clusterpro_md
# chkconfig --add clusterpro
# chkconfig --add clusterpro_webmgr
# chkconfig --add clusterpro_alertsync
```

(24) システムの再起動をおこなってください。

項番(22)の適用準備完了メッセージにおいて、“1. アップデート適用後、再起動が必要な場合” または “3. アップデート適用には、システムの再起動が必要な場合”の表示がされた場合は、CLUSTERPRO のクラスター Manager 画面から MW2 のサーバをクラスターシャットダウンリブートしてください。

なお、アップデートモジュール Rel 1.8 を適用する場合のみ、MW1 上において、以下のコマンドを実施してください。

```
# reboot
```

(25) ミラーの自動復帰が開始されます(Rel 1.8 適用時のみ)

MW2 から MW1 へのミラーデータの自動ミラー復帰が行われます。

自動ミラー復帰完了まで、お待ちください。

完了後、次の項にすすんでください。

(26) CLUSTERPRO Manager より、稼動系を MW2 から MW1 へ変更をおこなってください。

MW1 が稼動系になった後、必要なサービスが全て起動しているか、確認を行ってください。

(27) 必要なサービスが起動しているか、Management Console から確認を行い、必要なサービスが起動していない場合は、起動をおこなってください。

2. オフラインアップデートの実施手順

オフラインアップデートは、予め入手しておいたアップデートモジュールを Management Console 画面から適用します。

オフラインアップデートでは、アップデートモジュール適用時にインターネットへの接続が可能な状態である必要はありません。

ここでは、予め入手した MW 用アップデートモジュール「N8100-1705_UpdateModule-1.0.tgz」を CD-R メディアに格納しているものとして、オフラインアップデート手順についてご説明します。

以下の手順では、本手順実行開始時において、稼働系のマシンを MW1、待機系のマシンを MW2 として、説明いたします。

- (1) MW2 の MW サーバにログインしてください。(Rel 1.8 適用時のみ)



本手順の実行は、root アカウントで行う必要があります。
MW にログインした後、su コマンドで root アカウントに変更しておいてください。
「su - root」を実行することで root アカウントに変更できます。

- (2) MW2 を次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を起動させないようにします。(Rel 1.8 適用時のみ)

次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を起動させないため、
下記のコマンドを実施する。

```
# chkconfig --del clusterpro_alertsync
# chkconfig --del clusterpro_webmgr
# chkconfig --del clusterpro
# chkconfig --del clusterpro_md
# chkconfig --del clusterpro_trn
# chkconfig --del clusterpro_evt
```

- (3) CLUSTERPRO Manager からサーバの MW2 のシャットダウンリブートを実行します。
(Rel 1.8 適用時のみ)

- (4) クライアント PC から MW2 の Management Console(システム管理者)にログインしてください。

Management Console のセキュリティモードがレベル 2 の場合

`https://example.co.jp:50453/`

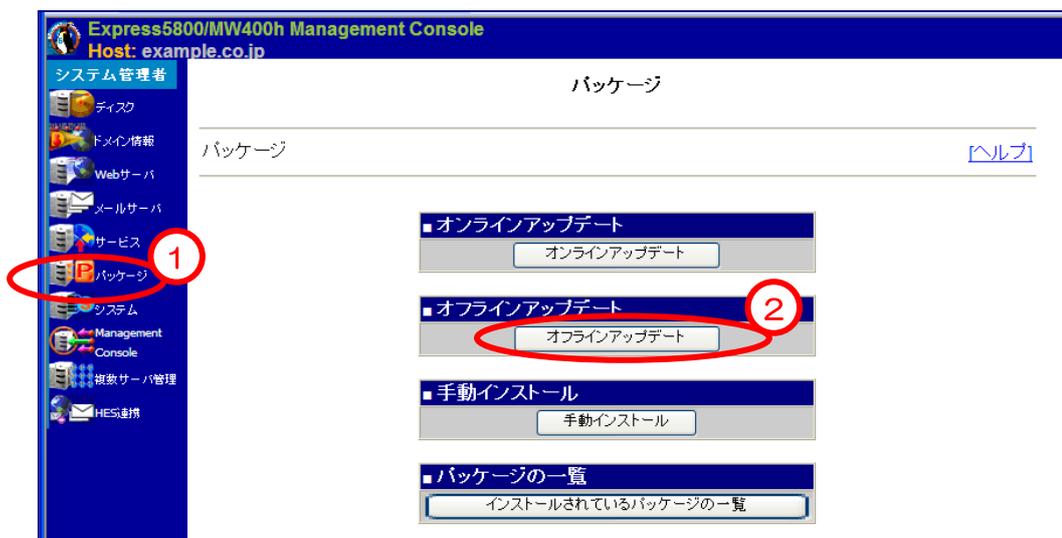
Management Console のセキュリティモードがレベル 1 または レベル 0 の場合

`http://example.co.jp:50090/`



URL に各ホスト名を指定する場合は、クライアント PC 側でホスト名の名前解決ができる必要があります。名前解決できない場合は、IP アドレスで接続してください。

- (5) 「システム > ディスク」の /dev/cdrom デバイスの「詳細」画面から、/dev/cdrom を /media/cdrom に接続(マウント)してください。
- (6) 「パッケージ > オフラインアップデート」画面を開いてください。



(7) CD-R を参照してください。

「ディレクトリ」に CD-R をマウントしているディレクトリ /media/cdrom を入力し、[参照]をクリックしてください。

「指定されたディレクトリに含まれるアップデート一覧」に、アップデート情報が表示されます。(オフラインアップデートでは、パッケージ名は表示されません)

■ ディレクトリ指定				
ディレクトリ:	<input type="text" value="/media/cdrom/"/>	<input type="button" value="参照"/>		

■ >指定されたディレクトリに含まれるアップデート一覧				
公開日	Rel.	概要	パッケージ名	適用
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel1.1をリリースします。	update-1.0-1.noarch.rpm	<input checked="" type="checkbox"/>

■ アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
アップデートモジュールを取得していません						

(8) アップデートモジュールの取得を実行してください。

アップデートモジュールの[適用]欄のチェックボックスをチェックして、[適用]ボタンをクリックしてください。

■ >指定されたディレクトリに含まれるアップデート一覧				
公開日	Rel.	概要	パッケージ名	適用
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel1.1をリリースします。	update-1.0-1.noarch.rpm	<input checked="" type="checkbox"/>

アップデートモジュールを MW2 のローカルディスクに格納するメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。



参照しているディレクトリにアップデートモジュールが複数ある場合、[適用]をチェックしたアップデートのみが、アップデート適用対象となります。未適用のアップデートが複数ある場合は、アップデートバージョンが古いものから順にすべて適用してください。

(9) アップデートモジュールの適用を実行してください。

アップデートモジュールの[選択]欄のチェックボックスをチェックして、[選択]ボタンをクリックしてください。

■アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel 1.1をリリースします。[詳細情報]	不要	update-1.0-1.noarch.rpm	済	<input checked="" type="checkbox"/>



未適用のアップデートモジュールが複数ある場合、[選択]をチェックしたアップデートモジュールを含み、必要なアップデートモジュールは自動的に適用対象としてチェックされます。

アップデートモジュール適用確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。適用準備に成功すると、以下のようにアップデート適用実行を促すメッセージが表示されます。

[パッケージ](#) > オフラインアップデート

[戻る](#) [ヘルプ](#)

※アップデートモジュール(Rel 1.1)の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。
なお、このアップデートにはアップデート適用後、再起動が必要なものが含まれています。アップデート適用後、再起動を行ってください。

アップデート適用

最終更新日付: 2011/09/08

最新情報に更新

■アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel 1.1をリリースします。[詳細情報]	不要	update-1.0-1.noarch.rpm	済	<input type="checkbox"/>

Rel1.0 適用前の場合は、以下のように再起動を促すメッセージが表示されます

[パッケージ](#) > オフラインアップデート

[戻る](#) [ヘルプ](#)

※アップデートモジュール(Rel 1.0)の適用準備が完了しています。適用する場合、本装置を再起動してください。

最終更新日付: 2011/2/4

最新情報に更新

■アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	適用
2011/2/4	1.0	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel 1.0 [詳細情報]		dummy-1.0-0.i386.rpm	済	<input type="checkbox"/>

(10) アップデートモジュールの適用を行います。

適用準備に成功すると、以下のようにアップデート適用実行を促すメッセージが表示されます。パターンは以下の三つとなります。

1. アップデート適用後、再起動が必要な場合

「アップデートモジュール(Rel [適用するアップデート中、一番新しいアップデート番号])の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。なお、このアップデートにはアップデート適用後、再起動が必要なものが含まれています。アップデート適用後、再起動を行ってください。」

上記メッセージが表示された場合には、[アップデート適用]ボタンを押下しアップデートを行ってください。アップデートの適用が完了したら、項番(11)にすすんでください。

2. アップデート適用後、再起動が不要な場合

「アップデートモジュール(Rel [適用するアップデート中、一番新しいアップデート番号])の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。」

上記メッセージが表示された場合には、[アップデート適用]ボタンを押下しアップデートを行ってください。アップデートの適用が完了したら、項番(14)にすすんでください。

3. アップデート適用には、システムの再起動が必要な場合

「アップデートモジュール(Rel [適用するアップデートバージョン])の適用準備が完了しています。適用する場合、本装置を再起動してください。」

アップデート適用実施には、項番(11)にすすんでください。

(11) MW2 を次回 OS 起動する際、CLUSTERPRO を起動させるようにします(Rel 1.8 適用時のみ)

次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を自動起動させるため、下記のコマンドを実施する。実施はルートユーザにて、行ってください。

```
# chkconfig --add clusterpro_evt  
# chkconfig --add clusterpro_trn  
# chkconfig --add clusterpro_md  
# chkconfig --add clusterpro  
# chkconfig --add clusterpro_webmgr  
# chkconfig --add clusterpro_alertsync
```

(12) システムの再起動をおこなってください。

項番(10)の適用準備完了メッセージにおいて、“1. アップデート適用後、再起動が必要な場合” または “3. アップデート適用には、システムの再起動が必要な場合”は、CLUSTERPRO のクラスター Manager 画面から MW2 のサーバをクラスターシャットダウンリポートしてください。なお、アップデートモジュール Rel 1.8 を適用する場合のみ、MW2 上において、以下のコマンドを実施してください。

```
# reboot
```

(13) ミラーの自動復帰が開始されます(Rel 1.8 適用時のみ)

MW1 から MW2 へのミラーデータの自動ミラー復帰が行われます。

自動ミラー復帰完了まで、お待ちください。

完了後、次の項にすすんでください。

(14) CLUSTERPRO Manager より、稼動系を MW1 から MW2 へ変更をおこなってください。

(15) MW1 の MW サーバにログインしてください。(Rel 1.8 適用時のみ)



本手順の実行は、root アカウントで行う必要があります。

MW にログインした後、su コマンドで root アカウントに変更しておいてください。

「su - root」を実行することで root アカウントに変更できます。

(16) MW1 を次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を起動させないようにします。(Rel 1.8 適用時のみ)

次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を起動させないため、

下記のコマンドを実施する。

```
# chkconfig --del clusterpro_alertsync
```

```
# chkconfig --del clusterpro_webmgr
```

```
# chkconfig --del clusterpro
```

```
# chkconfig --del clusterpro_md
```

```
# chkconfig --del clusterpro_trn
```

```
# chkconfig --del clusterpro_evt
```

(17) CLUSTERPRO Manager からサーバの MW1 のシャットダウンリポートを実行します。

(Rel 1.8 適用時のみ)

- (18) クライアント PC から MW1 の Management Console(システム管理者)にログインしてください。

Management Console のセキュリティモードがレベル 2 の場合

`https://example.co.jp:50453/`

Management Console のセキュリティモードがレベル 1 または レベル 0 の場合

`http://example.co.jp:50090/`



URL に各ホスト名を指定する場合は、クライアント PC 側でホスト名の名前解決ができる必要があります。名前解決できない場合は、IP アドレスで接続してください。

- (19) 「システム > ディスク」の /dev/cdrom デバイスの「詳細」画面から、/dev/cdrom を /media/cdrom に接続(マウント)してください。

- (20) 「パッケージ > オフラインアップデート」画面を開いてください。



(21) CD-R を参照してください。

「ディレクトリ」に CD-R をマウントしているディレクトリ /media/cdrom を入力し、[参照]をクリックしてください。

「指定されたディレクトリに含まれるアップデート一覧」に、アップデート情報が表示されます。(オフラインアップデートでは、パッケージ名は表示されません)

■ディレクトリ指定

ディレクトリ:

■指定されたディレクトリに含まれるアップデート一覧

公開日	Rel.	概要	パッケージ名	適用
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel1.1をリリースします。	update-1.0-1.noarch.rpm	<input checked="" type="checkbox"/>

■アップデートモジュール一覧

公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
アップデートモジュールを取得していません						

(22) アップデートモジュールの取得を実行してください。

アップデートモジュールの[適用]欄のチェックボックスをチェックして、[適用]ボタンをクリックしてください。

■指定されたディレクトリに含まれるアップデート一覧

公開日	Rel.	概要	パッケージ名	適用
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel1.1をリリースします。	update-1.0-1.noarch.rpm	<input checked="" type="checkbox"/>

アップデートモジュールを MW1 のローカルディスクに格納するメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。



参照しているディレクトリにアップデートモジュールが複数ある場合、[適用]をチェックしたアップデートのみが、アップデート適用対象となります。未適用のアップデートが複数ある場合は、アップデートバージョンが古いものから順にすべて適用してください。

(23) アップデートモジュールの適用を実行してください。

アップデートモジュールの[選択]欄のチェックボックスをチェックして、[選択]ボタンをクリックしてください。

■アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel 1.1をリリースします。 [詳細情報]	不要	update-1.0-1.noarch.rpm	済	<input checked="" type="checkbox"/>



未適用のアップデートモジュールが複数ある場合、[選択]をチェックしたアップデートモジュールを含み、必要なアップデートモジュールは自動的に適用対象としてチェックされます。

アップデートモジュール適用確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。適用準備に成功すると、以下のようにアップデート適用実行を促すメッセージが表示されます。

[パッケージ](#) > オフラインアップデート

[\[戻る\]](#) [\[ヘルプ\]](#)

※アップデートモジュール(Rel 1.1)の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。
なお、このアップデートにはアップデート適用後、再起動が必要なものが含まれています。アップデート適用後、再起動を行ってください。

アップデート適用

最終更新日付: 2011/09/08

最新情報に更新

■アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	選択
2011/09/08	1.1	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel 1.1をリリースします。 [詳細情報]	不要	update-1.0-1.noarch.rpm	済	<input type="checkbox"/>

Rel1.0 適用前の場合は、以下のように再起動を促すメッセージが表示されます

[パッケージ](#) > オフラインアップデート

[\[戻る\]](#) [\[ヘルプ\]](#)

※アップデートモジュール(Rel 1.0)の適用準備が完了しています。適用する場合、本装置を再起動してください。

最終更新日付: 2011/2/4

最新情報に更新

■アップデートモジュール一覧						
公開日	Rel.	概要	再起動	パッケージ名	取得	適用
2011/2/4	1.0	Express5800/MW400h アップデートモジュール Rel 1.0 [詳細情報]		dummy-1.0-0.i386.rpm	済	<input type="checkbox"/>

(24) アップデートモジュールの適用を行います。

適用準備に成功すると、以下のようにアップデート適用実行を促すメッセージが表示されます。パターンは以下の三つとなります。

1. アップデート適用後、再起動が必要な場合

「アップデートモジュール(Rel [適用するアップデート中、一番新しいアップデート番号])の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。なお、このアップデートにはアップデート適用後、再起動が必要なものが含まれています。アップデート適用後、再起動を行ってください。」

上記メッセージが表示された場合には、[アップデート適用]ボタンを押下しアップデートを行ってください。アップデートの適用が完了したら、(25)にすすんでください。

2. アップデート適用後、再起動が不要な場合

「アップデートモジュール(Rel [適用するアップデート中、一番新しいアップデート番号])の適用準備が完了しています。適用する場合、「アップデート適用」ボタンをクリックしてください。」

上記メッセージが表示された場合には、[アップデート適用]ボタンを押下しアップデートを行ってください。アップデートの適用が完了したら、(28)にすすんでください。

3. アップデート適用には、システムの再起動が必要な場合

「アップデートモジュール(Rel [適用するアップデートバージョン])の適用準備が完了しています。適用する場合、本装置を再起動してください。」

アップデート適用実施には、項番(25)にすすんでください。

(25) MW1 を次回 OS 起動する際、CLUSTERPRO を起動させるようにします(Rel 1.8 適用時のみ)

次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を自動起動させるため、下記のコマンドを実施する。実施はルートユーザにて、行ってください。

```
# chkconfig --add clusterpro_evt
# chkconfig --add clusterpro_trn
# chkconfig --add clusterpro_md
# chkconfig --add clusterpro
# chkconfig --add clusterpro_webmgr
# chkconfig --add clusterpro_alertsync
```

(26) システムの再起動をおこなってください。

(23)の適用準備完了メッセージにおいて、“1. アップデート適用後、再起動が必要な場合”
または “3. アップデート適用には、システムの再起動が必要な場合”の表示がされた場合には、CLUSTERPRO のクラスター Manager 画面から MW1 のサーバをクラスターシャットダウンリブートしてください。

なお、アップデートモジュール Rel 1.8 を適用する場合のみ、MW1 にて、以下のコマンドを実施してください。

```
# reboot
```

(27) ミラーの自動復帰が開始されます(Rel 1.8 適用時のみ)

MW2 から MW1 へのミラーデータの自動ミラー復帰が行われます。

自動ミラー復帰完了まで、お待ちください。

完了後、次の項にすすんでください。

(28) CLUSTERPRO WebManager より、稼動系を MW2 から MW1 へ変更をおこなってください。

MW1 が稼動系になった後、必要なサービスが全て起動しているか、確認を行ってください。

(29) 必要なサービスが起動しているか、Management Console から確認を行い、サービスが起動していない場合は、起動をおこなってください。

3. コマンドラインからのアップデートの実施手順

コマンドラインからのアップデートは、予め入手しておいてアップデートモジュールをコマンドラインから適用します。

コマンドラインからのアップデートでは、複数のアップデートをシステムの再起動なしに適用することができます。システムの再起動は、すべてのアップデートを適用した最後に行うことができます。

ここでは、予め入手した MW 用アップデートモジュール「N8100-1705_UpdateModule-1.0.tgz」を MW の /tmp ディレクトリにコピーされているとして説明します。

- (1) MW2 サービスを停止させてください。

Management Console「サービス」画面からすべてのサービスを停止してください。

ただし、ログインに使用するサービス(sshd または telnetd)、フェイルオーバクラスタ構成の場合はクラスタプロ(CLUSTERPRO X)サービスや sshd サービスは停止しないでください。

- (2) MW2 の MW サーバにログインしてください。(Rel 1.8 適用時のみ)



本手順の実行は、root アカウントで行う必要があります。
MW にログインした後、su コマンドで root アカウントに変更しておいてください。
「su - root」を実行することで root アカウントに変更できます。

- (3) MW2 を次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を起動させないようにします。(Rel 1.8 適用時のみ)

次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を起動させないため、
下記のコマンドを実施する。

```
# chkconfig --del clusterpro_alertsync  
# chkconfig --del clusterpro_webmgr  
# chkconfig --del clusterpro  
# chkconfig --del clusterpro_md  
# chkconfig --del clusterpro_trn  
# chkconfig --del clusterpro_evt
```

- (4) CLUSTERPRO WebManager からサーバの MW2 のシャットダウンリブートを実行します。(Rel 1.8 適用時のみ)

- (5) MW にログインしてください。



アップデートの実行は、root アカウントで行う必要があります。
MW にログインした後、su コマンドで root アカウントに変更しておいてください。
「su - root」を実行することで root アカウントに変更できます。

- (6) /tmp ディレクトリに移動し、アップデートモジュールを展開してください。

```
# cd /tmp  
# tar xvfz N8100-1705_UpdateModule-1.0.tgz
```

N8100-1705_UpdateModule-1.0 ディレクトリが作成されます。

- (7) N8100-1705_UpdateModule-1.0 ディレクトリ配下に移動してください。

```
# cd N8100-1705_UpdateModule-1.0/command
```

- (8) アップデートコマンドを実行してください。

```
# perl MailWebServer_UpdateModule.pl
```

アップデートの実行状態が表示されます。

```
---Script Start-----  
アップデート情報が表示されます  
---Script End-----
```

- (9) MW2 を次回 OS 起動する際、CLUSTERPRO を起動させるようにします(Rel 1.8 適用時のみ)

次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を自動起動させるため、下記のコマンドを実施する。
実施はルートユーザにて、行ってください。

```
# chkconfig --add clusterpro_evt  
# chkconfig --add clusterpro_trn  
# chkconfig --add clusterpro_md  
# chkconfig --add clusterpro  
# chkconfig --add clusterpro_webmgr  
# chkconfig --add clusterpro_alertsync
```

(10) システムの再起動をおこなってください。

以下の場合、CLUSTERPRO のクラスター Manager 画面から MW2 のサーバをクラスターシャットダウンリブートしてください。

- ・ Rel 1.0 適用時の場合
- ・ Rel 1.7 を適用する場合
- ・ Rel1.1 以降を適用する場合 かつ アップデートモジュールに再起動が必要なアップデートが含まれている場合

なお、アップデートモジュール Rel 1.8 を適用する場合のみ、MW2 上において、以下のコマンドを実施してください。

```
# reboot
```

(11) ミラーの自動復帰が開始されます(Rel 1.8 適用時のみ)

MW1 から MW2 へのミラーデータの自動ミラー復帰が行われます。

自動ミラー復帰完了まで、お待ちください。

以下の場合、CLUSTERPRO のクラスター Manager 画面から MW2 のサーバをクラスターシャットダウンリブートしてください。

- ・ Rel 1.0 適用時の場合
- ・ Rel 1.7 を適用する場合
- ・ Rel1.1 以降を適用する場合 かつ アップデートモジュールに再起動が必要なアップデートが含まれている場合

なお、アップデートモジュール Rel 1.8 を適用する場合のみ、MW2 上において、以下のコマンドを実施してください。

```
# reboot
```

(12) CLUSTERPRO Manager より、稼働系を MW1 から MW2 へ変更をおこなってください。

MW2が稼働系になった後、必要なサービスが全て起動しているか、確認を行ってください。

(13) サービスを停止させてください。

MW1 の Management Console「サービス」画面からすべてのサービスを停止してください。ただし、ログインに使用するサービス(sshd または telnetd)、フェイルオーバークラスタ構成の場合はクラスタプロ(CLUSTERPRO X)サービスや sshd サービスは停止しないでください。

(14) MW1 の MW サーバにログインしてください。(Rel 1.8 適用時のみ)



本手順の実行は、root アカウントで行う必要があります。
MW にログインした後、su コマンドで root アカウントに変更しておいてください。
「su - root」を実行することで root アカウントに変更できます。

(15) MW1 を次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を起動させないようにします。(Rel 1.8 適用時のみ)

次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を起動させないため、
下記のコマンドを実施する。

```
# chkconfig --del clusterpro_alertsync  
# chkconfig --del clusterpro_webmgr  
# chkconfig --del clusterpro  
# chkconfig --del clusterpro_md  
# chkconfig --del clusterpro_trn  
# chkconfig --del clusterpro_evt
```

(16) CLUSTERPRO WebManager からサーバの MW1 のシャットダウンリブートを実行します。(Rel 1.8 適用時のみ)

(17) MW1にログインしてください。



アップデートの実行は、root アカウントで行う必要があります。
MW にログインした後、su コマンドで root アカウントに変更しておいてください。
「su - root」を実行することで root アカウントに変更できます。

(18) /tmp ディレクトリに移動し、アップデートモジュールを展開してください。

```
# cd /tmp  
# tar xvfz N8100-1705_UpdateModule-1.0.tgz
```

N8100-1705_UpdateModule-1.0 ディレクトリが作成されます。

(19) N8100-1705_UpdateModule-1.0 ディレクトリ配下に移動してください。

```
# cd N8100-1705_UpdateModule-1.0/command
```

(20) アップデートコマンドを実行してください。

```
# perl MailWebServer_UpdateModule.pl
```

アップデートの実行状態が表示されます。

```
---Script Start-----  
アップデート情報が表示されます  
---Script End-----
```

(21) MW1 を次回 OS 起動する際、CLUSTERPRO を起動させるようにします (Rel 1.8 適用時のみ)

次回 OS 起動時に CLUSTERPRO を自動起動させるため、下記のコマンドを実施する。
実施はルートユーザにて、行ってください。

```
# chkconfig --add clusterpro_evt  
# chkconfig --add clusterpro_trn  
# chkconfig --add clusterpro_md  
# chkconfig --add clusterpro  
# chkconfig --add clusterpro_webmgr  
# chkconfig --add clusterpro_alertsync
```

(22) システムの再起動をおこなってください。

以下の場合、CLUSTERPRO のクラスター Manager 画面から MW1 のサーバをクラスターシャットダウンリブートしてください。

- ① Rel 1.0 適用時の場合
- ② Rel 1.7 を適用する場合
- ③ Rel1.1 以降を適用する場合 かつ アップデートモジュールに再起動が必要なアップデートが含まれている場合

なお、アップデートモジュール Rel 1.8 を適用する場合のみ、MW1 上において、以下のコマンドを実施してください。

```
# reboot
```

(23) ミラーの自動復帰が開始されます(Rel 1.8 適用時のみ)

MW2 から MW1 へのミラーデータの自動ミラー復帰が行われます。

自動ミラー復帰完了まで、お待ちください。

完了後、次の項にすすんでください。

(24) CLUSTERPRO Manager より、稼動系を MW2 から MW1 へ変更をおこなってください。

(25) サービスを起動してください。

MW1 が稼動系になった後、必要なサービスが全て起動しているか、確認を行ってください。

4. RPM パッケージファイルの適用手順

RPM パッケージファイルの適用は、MW 用アップデートモジュールの適用ではなく、rpm ファイルを直接インストールします。

ここでは、予め入手した MW 用の rpm ファイルを CD-R メディアに格納しているものとして、RPM パッケージファイルの適用手順についてご説明します。

- (1) クライアント PC からシステム管理者 Management Console にログインしてください。

Management Console のセキュリティモードがレベル 2 の場合

`https://example.co.jp:50453/`

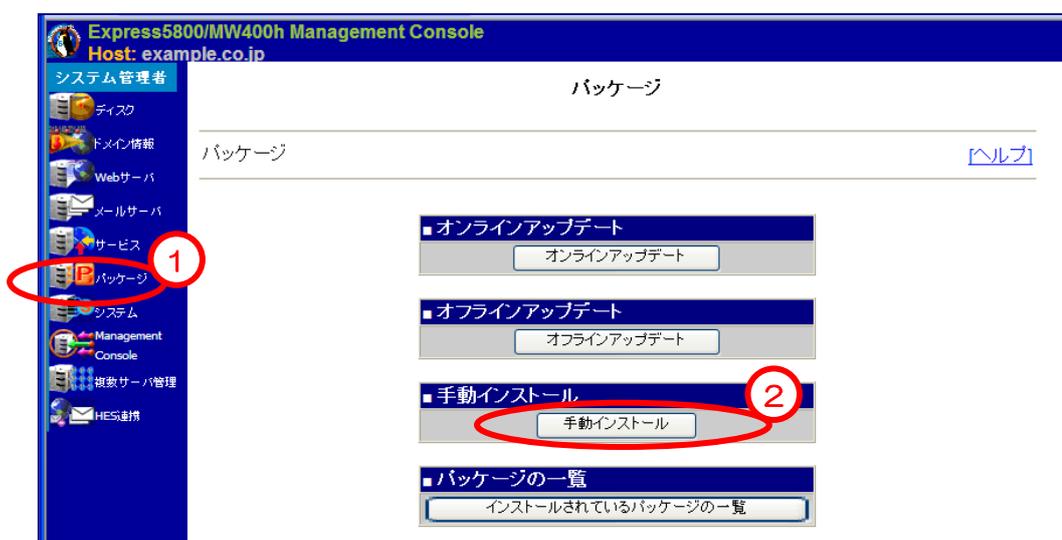
Management Console のセキュリティモードがレベル 1 または レベル 0 の場合

`http://example.co.jp:50090/`

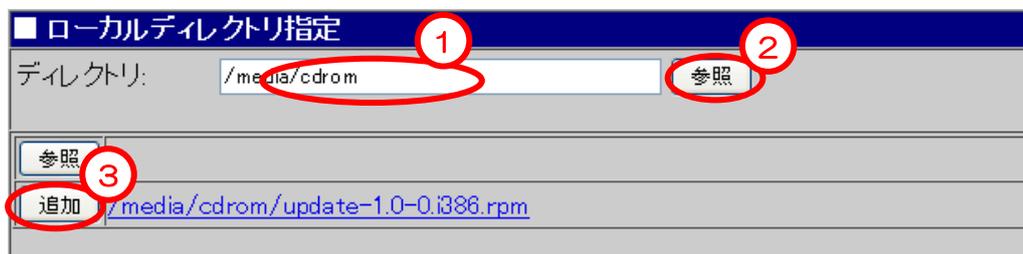


URL に各ホスト名を指定する場合は、クライアント PC 側でホスト名の名前解決ができる必要があります。名前解決できない場合は、IP アドレスで接続してください。

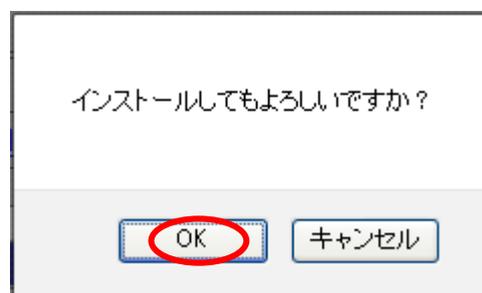
- (2) 「システム > ディスク」の /dev/cdrom デバイスの「詳細」画面から、/dev/cdrom を /media/cdrom に接続(マウント)してください。
- (3) 「パッケージ > 手動インストール」画面を開いてください。



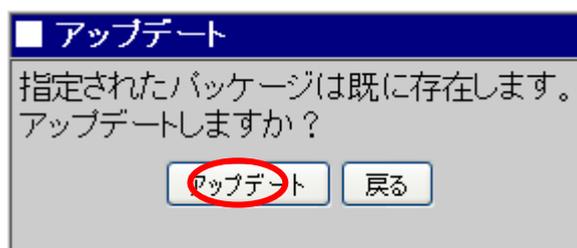
- (4) CD-R を参照してください。
「ディレクトリ」に CD-R をマウントしているディレクトリ /media/cdrom を入力し、[参照]をクリックしてください。
指定されたディレクトリに含まれる rpm ファイルが表示されます。



- (5) 適用する rpm ファイルの[追加]をクリックしてください。



インストール確認のメッセージが表示されますので[OK]をクリックしてください。



適用する rpm ファイルがアップデートされる場合は、アップデート確認のメッセージが表示されますので[アップデート]をクリックしてください。

5. バックアップの実施

アップデートモジュールを適用する前や、適用した後には、MW のバックアップを行われることを推奨します。

アップデートモジュール適用後に何らかの問題が発生し、アップデートモジュール適用前の状態に戻ることとなった場合、システムの再インストールおよびバックアップデータのリストアを行う必要があるため、必ず、バックアップを行って下さい。



バックアップデータをリストアする場合、MWのアップデート適用状態はバックアップ実行時と同じ状態にされていることを想定しています。例えば、アップデート Rel.1.2 適用状態でバックアップしたデータは、同じく Rel.1.2 適用状態でリストアされることを想定しています。

バックアップ、リストアについては、ユーザーズガイドや Management Console のオンラインヘルプに詳しい説明がございます。